

礼拝 2021年8月29日(日)
題 『恐れることはない。ただ信じなさい。』
テキスト：マルコ5：35～43節

親愛なる皆さん、おはようございます。

先週わたしたちは、聖書からイエスの服に後ろから触れて病気を癒された女の話の聞きました。この癒しの出来事の後のこと、

35:イエスがまだ話しておられるときに、会堂長の家から人々が来て言ったのです。「お嬢さんは亡くなりました。もう、先生を煩わすには及ばないでしょう。」と。イエスは、この会堂長から危篤の娘を癒してほしいと頼まれて、会堂長の家に向かう途中だったのです。

会堂長の大切な娘は、12歳の娘であったと後の部分42節に出ています。この知らせ、悪い知らせを聞いた会堂長は、どんなに打ちのめされた気持ちになったろうかと想像します。わたしたちが、自分の身内や親しい人に関してそのような知らせを受けたとしたら気は動転してしまうのではないのでしょうか。しかし、現実にはそのような時もあるでしょう。今はコロナ禍でもあり聖書のことばが身に沁みます。知らせに来た人たちは「会堂長の大切な娘はもう死んだ。」と確信を持って言ったのです。人々は会堂長に断定的な報告をしたのです。

これに対して、イエスは知らせに来た人たちではなく、娘の父である会堂長に向かって「恐れることはない。ただ信じなさい」と言われたのです。父である会堂長は悪い知らせに対して、どのような心の状態だったのでしょうか。ある程度の覚悟はあったかもしれませんが、ただならぬ気持ちに陥ったのではないかと思うのです。

イエスは、きっぱりと「恐れることはない。ただ信じなさい」と言われたのです。「恐れることはない」とは、気にしなくてよいとか、心にかけてなくて良いということではありません。そんなことは誰もできません。しかし、イエスは毅然と「恐れることはない。ただ信じなさい」と言われるのです。恐怖と不安に慄（おのの）かないように、ということです。

これは、何はさておき、「まず神を信じなさい」ということです。たとえどんなことが起こっても、神からあなたの心を離さないように、神を離れると、サタンや悪や、闇が待ち受けているのです。神やイエスさまから心が離れないためにはどうしたら良いのでしょうか。とにかく、神とイエスの名をささやくことです。「イエスさま、神さま」と寄りすがってささやいてみるのです。

会堂長は天と地を創られた神を信じていたのです。しかし、どんなに信仰的な人でも、そう見える人でも、神と教会に奉仕している人、役員の人たちでも、

牧師でも、心が動揺する時はあるのです。そのことで自分を責めたり、人を責めたりする必要もないのです。わたしは思います。神を信じてこの世を生きる、信仰者、キリスト者は、ただ神を信じる、イエスを信じるということによって、そのことによってのみ、不安や恐れに立ち向かって生きることができるのだということを。それが生きるための支え、軸になると信じるのです。

主イエスの宣言を今日共に聞きましょう。「恐れることはない。ただ信じなさい」
憐み深い、愛なる神さまは、自分を頼る者がたとえどのような事態になっても万事を益としてくださることということです。

イザヤ書 41章 13節 (P 1126) にある旧約聖書預言者イザヤのことばを聞きましょう。「わたしは主、あなたの神。あなたの右の手を取って言う。恐れるな、わたしはあなたを助ける、と。」

恐れと不安の嵐を巻き起こす力とは一体何であり、誰なのでしょう。人の集まる所、家族にしろ、職場にしろ、教会内でも、人間が集まる所では、恐れと不安に支配される時がありえるのです。そのことは大変な事態ではありますが驚くことはないのかもしれませんが。問題は、それに対してどう臨んで行くかということの方が大切なのです。昔、「問題が起こる事が問題なのではない。問題を解決できないことが問題なのだ。」と聞いたことがあります。ここで、旧約聖書の箴言のことばを思い出すのです。箴言 29編 25節 (P 1030) です。

「人は恐怖の罠にかかる。主を信頼する者は高い所に置かれる。」と。
不安と恐れが支配する中では、そこにいる多くの人々が不信と恐怖の罠にかかります。問題は、恐怖心は人に正しい判断をできなくさせ、取るべき行動を誤らせることがあるということです。時には、様々なことばや行動で騒ぎを大きくして行く人たちも出て来たりします。こうなると問題の解決どころか、心や人と人の交わりは燃え尽きてしまいかねません。しかし、イエスを軸とする交わりは決して燃え尽きないのです。互いに覚え合い、祈りを通して静かに深くつながって行くのです。

しかし、主を信頼する者、つまりイエス・キリストに望みを置く者たちは、高い所に置かれる。そして、恐怖感などにいたずらに巻き込まれることなく、静まってイエスと神を見ることができるよう。「恐れることはない。ただ信じなさい」

ここからはイエスの神の独占的な働きが起こって行きます。
イエスは、37:そして、ペトロ、ヤコブ、またヤコブの兄弟ヨハネのほかは、だ

れもついて来ることをお許しにならなかった。

38:一行は会堂長の家に着いた。イエスは人々が大声で泣きわめいて騒いでいるのを見て、
ユダヤ教では、死者が出た時は、大声で泣く役割の人がいたのです。
笛を吹く人もいました。

イエスは、

39:家の中に入り、人々に言われた。「なぜ、泣き騒ぐのか。子供は死んだのではない。眠っているのだ。」と。

このイエスの言葉は、そこにいた人々が持っていた、常識や経験をくつがえす言葉でした。

人々は会堂長の娘は死んだと思ったのです。しかし、イエスは
「子供は死んだのではない。眠っているのだ。」と。

このことは、今日の科学的には、死んでいたのか、仮死状態だったのかは分からないことのように思えます。

2000年前の人々も、

40:人々はイエスをあざ笑ったのです。

しかし、イエスは皆を外に出し、子供の両親と三人の弟子だけを連れて、子供のいる所へ入って行かれたのです。

イエスによる神の働き、独占的な働きは続けられて行ったのです。

41:そして、子供の手を取って、「タリタ、クム」と言われた。これは、
「少女よ、わたしはあなたに言う。起きなさい」という意味である。

イエスは、人々が死んだと思っていた娘に向いあいます。

そして子どもの手をしっかりと握り、その子に

「タリタ、クム」。「少女よ、起きなさい。」とイエスが日常に使われていたアラム語で呼びかけられました。「少女よ、起きなさい。」

そのイエスの呼びかけに応えるかのように、42:少女はすぐに起き上がって、歩きだした。もう十二歳になっていたからである。それを見るや、人々は驚きのあまり我を忘れた。43:イエスはこのことをだれにも知らせないようにと厳しく命じ、また、食べ物を少女に与えるようにと言われた。

神さまの不思議な救いの業が神の子イエスによって行われ、その場に神の栄光が表れたのです。

わたしたちも、状況が厳しくなればなるほど、恐れと不安は襲って来ますが、今日頂いた「恐れることはない。ただ信じなさい」という主イエスのことばを信仰の杖、拠り所、人生を導くとともに火として今日からの日々を生きて行きたいと願います。

- 35:イエスがまだ話しておられるときに、会堂長の家から人々が来て言った。「お嬢さんは亡くなりました。もう、先生を煩わすには及ばないでしょう。」
- 36:イエスはその話をそばで聞いて、「恐れることはない。ただ信じなさい」と会堂長に言われた。
- 37:そして、ペトロ、ヤコブ、またヤコブの兄弟ヨハネのほかは、だれもついて来ることをお許しにならなかった。
- 38:一行は会堂長の家に着いた。イエスは人々が大声で泣きわめいて騒いでいるのを見て、
- 39:家の中に入り、人々に言われた。「なぜ、泣き騒ぐのか。子供は死んだのではない。眠っているのだ。」
- 40:人々はイエスをあざ笑った。しかし、イエスは皆を外に出し、子供の両親と三人の弟子だけを連れて、子供のいる所へ入って行かれた。
- 41:そして、子供の手を取って、「タリタ、クム」と言われた。これは、「少女よ、わたしはあなたに言う。起きなさい」という意味である。
- 42:少女はすぐに起き上がって、歩きだした。もう十二歳になっていたからである。それを見るや、人々は驚きのあまり我を忘れた。
- 43:イエスはこのことをだれにも知らせないようにと厳しく命じ、また、食べ物を少女に与えるようにと言われた。